

羽生市

No. 224

発行日 / 2018年(平成30年)
11月15日

発行 / 羽生市議会
編集 / 議会だより編集委員会

ぎかいだより



秋風にそよぐコスモス300万本 (10月14日 コスモスフェスティバル)

9 P	7~8P	2~6P
審議案件と結果 平成29年度決算を認定	議案に対する質疑	市政に対する一般質問

9月定例市議会



藍染議会

市政に対する 一般質問

そこが… 聞きたい



一般質問は、提出議案以外で市政全般にわたる事務の執行状況や将来に向かっての方針などを執行部に問うものです。

今期定例会では、9月12日、13日、14日の3日間にわたり9人の議員によって行われました。

主な質問と答弁の要旨は次のとおりです。

選挙の投票率向上を 目指した取り組みについて

保泉 和正 議員

・質問 選挙制度を身近に感じ、その重要性を認識し、一人でも多くの有権者に投票所に足を運んでいただくための取り組みについて、次の点を伺う。

- ① 投票率低下についての分析及び今までの投票率向上に向けた取り組みについて
 - ② 本市における18歳以上20歳未満の人の投票率と問題点、対策について
 - ③ 今後の投票率向上に向けた対策について
 - ④ 市民参加の政治、投票率向上を目指す取り組みに対する市長の見解について
- ・答弁 (①②③選挙管理委員会書記長、④市長)
- ① 投票率は全国的に低下して

おり、特に若年層の投票率低下が顕著である。選挙執行時の取り組みとして、市ホームページへの掲載、横断幕の設置、防災行政無線などによる投票の呼びかけ、市の公式LINEによる情報発信を行っている。さらには、新たに選挙権を有した方へのお知らせの送付、市内高校への出前講



座や模擬投票を行うなど、投票率向上に取り組んでいる。

② 平成29年10月の衆議院議員選挙の20歳未満の投票率は、

全体の投票率と比較して10ポイント以上低かった。対策として、選挙制度や投票の流れ、住民票の異動の必要性などを伝えていきたい。また、学校の授業や出前講座が投票率向上に有効であり、教育機関と連携した取り組みを強化していきたい。

③ 期日前投票は告示日翌日から投票日前日まで投票できる便利な制度であるため、制度をより広く周知することが有効であると考えている。また、常時行う選挙啓発と若年層に対する取り組みを効果的に推進することで投票率の向上を図っていきたい。

④ 市民が主役のまちづくりを進めることで、市民の市政への関心が高まることにより、市政への参加が促進され、投票率の向上につながるものと考えている。

その他の質問

・中学生の進路指導と進学先との連携について

議会の詳細は市議会ホームページをどうぞ

羽生市議会ホームページでは、市議会の概要をはじめ、定例会や臨時会の本会議で行われた一般質問や議案質疑の内容、政務活動費の収支報告一覧などを公開しております。また、議会のインターネット中継もご覧いただけますので、是非ご利用ください。

議会インターネット中継をご利用ください。

<http://smart.discussvision.net/smart/hanyu/>



こちらのQRコードからもアクセスできます。→

災害ボランティアセンターとの連携について

野中一城議員

・質問 羽生市地域防災計画

では、羽生市社会福祉協議会が市の決定に基づき、災害ボランティアセンターを設置するとある。そこで、災害ボランティアセンターについて、次の点を伺う。

- ①業務内容について
- ②市と社会福祉協議会との連

携について

③災害ボランティアの受け入れと送り出しについて

④立ち上げ訓練の問題点や改善点について

⑤今後の展望について

・答弁 (市民福祉部長)
①災害ボランティアセンターは、被災地でのボランティア

活動を円滑に進めるための拠点である。業務内容は、被災地のニーズの把握、ボランティアの受け入れ、割り振りなどをを行う。

②地域防災計画において、災害対策本部の決定に基づき、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置すると位置付けている。市は必要な資機材等を提供するほか職員を配置し、災害対策本部と災害ボランティアセンターとの連絡調整、情報の収集や提供を行う。

③社会福祉協議会では、災害ボランティアセンター運営方針の中で、ボランティアの派遣基準などを定めている。支援を行う方と支援を受ける方との信頼関係を構築できるよう、今後の訓練や実際の体験



談を研究・検証していく。
④訓練参加者からは、被災者のニーズが的確に聞き取れない、ボランティアのマッチングがうまくいかないなどの意見があった。課題を解消するために、ボランティアの受け入れ体制を構築していくことが必要であると考えている。

⑤訓練には、自治会や自主防災組織、関係する市職員も参加して連携を強化している。今後は企業等にも参加を呼び掛け、継続して開催していきたいと考えている。

保育所の待機児童解消について

柳沢 暁議員

・質問 次の点を伺う。

- ①保育所等途中入所利用待機児童数について
- ②待機児童の定義について
- ③待機児童となる原因について
- ④待機児童解消への取り組みと今後の施策について
- ⑤保育士の処遇改善について

①10月1日時点の待機児童数は平成28年は5人、平成29年は15人であり、平成30年8月1日時点は24人である。

②厚生労働省の通知では、「保育の必要性が認定され、利用申込がされているが利用していないもの」と定義している。

保護者に復職の意思があれば

待機児童として扱う一方、保護者が求職活動を中止している場合や特定の保育所等を希望し待機している場合、保育所等以外の場で適切な保育をしている場合は、待機児童に含めなくてよいとされている。

③主なものとして、母親の社会進出の増加等がある。その



結果として、0〜2歳児の保育所利用の増加が考えられる。平成30年度の待機児童のうち91.7%は0〜2歳児である。0〜2歳児は、保育士配置基準等が厳しく、保育定員の拡大が困難な状況である。

④取り組みとして、公立保育所の0〜2歳児の居室スペースの確保などが挙げられる。今後の施策としては、幼稚園が0〜2歳児の受け入れが可能となる、認定こども園や一時預かり事業を活用した2歳児の受入れ推進など、幼稚園

事業者積極的に働きかけていきたい。
⑤民間保育園に支払う運営費の中には、保育士等の処遇改善費が含まれているほか、一定の条件を満たす施設に対して処遇改善加算を行っている。また、国の施策である技能・経験に応じた保育士等の処遇改善制度の周知もを行っている。

その他の質問

・危険なブロック塀改修補助制度について

水防災意識社会の再構築と地域の魅力づくりについて

峯寄 貴生 議員

・質問 近年の豪雨災害を受けて、「防ぎきれない大洪水は発生するもの」との考えに立ち、水防災意識社会の再構築が各地で進んでいる。洪水等からの「逃げ遅れゼロ」等のため、抜本的な対策が求められている。市として水防災を更に発展させていく事が重

要であるが、それを観光と絡めた地域の魅力としてはどうか。次の点を伺う。

- ①水防災意識社会再構築への取り組みの現状と今後について
 - ②水防災と観光における地域との連携について
- ・答弁（総務部長）
①水防災への関心を深めるこ

とを目的に、水防災トークステージの開催や洪水避難訓練を実施している。また、洪水ハザードマップを全戸配布するなど、洪水時のリスク情報を積極的に開示し、市民への洪水や浸水に対する意識付けを行っている。今後も、国や県、関係機関と連携を図りながら取り組んでいきたい。

②利根川を貴重な地域資源と捉えることにより、広く集客の望める事業の展開が可能となる。村君小学校では、十数年前から利根川に興味、関心

を持つてもらうことを目的に、利根川河川学習をおこなっている。利根川をボートで



利根川ボート下りの様子

下り、川辺の植物や生き物を観察して自然環境への理解を深めている。また、河川に親しみながらライフジャケットを身につけ、ゴムボートに乗る体験は有事の際の避難行動にも役立つと考えている。
新たな観光への取り組みとして、地域資源や観光資源を活用したグリーンツーリズムにも注目し、民間団体や地域住民、行政と連携を深め、水防災意識の向上や観光及び地域の活性化につなげていきたい。

羽生市の治水対策について

本田 裕 議員

・質問 冠水対策として、南部幹線道路のかさ上げ工事を実施しているが、次の点を伺う。

- ①道路のかさ上げによって懸念される、南7・8丁目の南部エリア浸水による水はけの影響について
- ②羽生中継ポンプ場南、上羽生地内の調整池及び中川拡幅

改修の完成見通し時期と長期的治水対策について

・答弁（まちづくり部長）

①かさ上げ工事を実施した道路は、交差点の真下の地下水路で飲み込めない水があふれて道路冠水になっていた。工事後に、あふれた水は、南部幹線と鉄道の立体交差の下を

くぐり抜け、南側の水田地帯に流れるものと考えられる。南7・8丁目地内に全く影響がないとは言えないため、経過を観察して対応していきたい



道路のかさ上げ工事

い。また、現在建設中の羽生中継ポンプ場南の調整池が完成すれば、相当量の排水が貯留できるため、かさ上げによる影響はなくなるものと考えている。

②羽生中継ポンプ場南の調整池は、約3万1千トンの容量で、平成30年度末完成予定である。上羽生地内の調整池は、土地所有者の理解が得られるよう、継続して調整を図っていく。中川の拡幅改修の完成見通しは、橋梁の付け替え工事に今後2年から3年を要

し、その後に拡幅工事に着手する予定であり、埼玉県から出来るだけ早期の完成を目指すとの回答があった。長期的治水対策としては、羽生市浸水対策基本計画に基づき、調整池等の設置、排水施設等の改修の検証、農地の貯水機能の活用等の検討に取り組んでいる。

その他の質問

・市道交差点の安全対策について
・側溝蓋設置による通学路の安全確保について

自治会が管理する集会施設の 空調設備整備に対する 補助金制度創設について

永沼 正人 議員

・質問 今年の夏は猛暑であった。また、いきいき百歳体操などを集会施設で行う自治会も増えており、参加者の熱中症も心配されるところである。そこで、次の点を伺う。

①自治会が管理する集会施設の現状、空調設備の設置状況について
②集会施設の空調設備設置補助制度の創設について
③いきいき百歳体操や各種社会教育事業の場として、快適な環境の提供について

・答弁(総務部長)

①市内には74の自治会があり、各自治会によって管理されている69カ所の集会施設のうち54施設には空調設備が設置されており、15施設には設置されていない状況である。
②③羽生市には集会施設の空調設備設置に関する補助制度はない。このため、各自治会が管理運営する69の集会施設のうち39施設は自治会費や寄附金などで空調設備を設置し、15施設は自治総合センターの助成金を活用し、空調設

備を設置している。

現在、国や県にも集会施設の備品に対する補助制度はなく、また、集会施設の運営方法はまちまちである。

しかし、今年の夏は記録的



集会施設の空調設備

な暑さであった。市としても、いきいき百歳体操などで利用されている集会施設を少しでも快適に利用いただきたいと考えている。

そのため、国や県などの補助制度の調査や、近隣市における集会施設の運営状況を調べるとともに、自治会、連合会等の方々のご意見を伺いながら、調査研究を進めていく。

その他の質問

・羽生市における空き教室の活用について

防災行政無線について

中島 直樹 議員

・質問 羽生市の防災行政無線は、153カ所の子局があり、市役所、消防本部、警察署から、人々の生活に関係深い情報を伝達するために利用されている。そこで、次の点を伺う。

①6月、7月、8月の定時放送を除いた放送回数について
②今夏、繰り返しされた連日の放送に嫌悪感を持っている方がいることについて
③日常の注意喚起の放送と急を要する放送、住民の生命に危険を及ぼすような内容の放送で、冒頭のチャイム音を分けることの見解について

・答弁(総務部長)



防災行政無線子局

①羽生市における正午や夕刻のチャイムなどの定時放送を除いた防災行政無線の放送回数は、平成30年6月が12回、

7月が32回、8月が24回、合計68回であった。平成29年6月が2回、7月が21回、8月が12回、合計35回であった。今年の夏は猛暑であったため、熱中症予防の放送が多かった。

②防災行政無線による放送は、時に耳障りと感じるかもしれないが、放送時間の調整やメール配信での対応など工夫し、市民の生命と財産を守るため、防災行政無線を適正に運用している。

③防災行政無線は、放送の開

始と終了の合図のため、1種類のみのチャイムを使用している。放送内容の緊急性や重要性に応じて2種類以上のチャイムにすると、放送が複雑化し、市民が混乱する恐れがあるため、今後も1種類のままとする。ただし、市民の生命、財産に関係するような重大事案発生の場合には、サイレン吹鳴を行うなどを検討していく。

その他の質問

・防犯情報の提供について

外国人技能実習生

受け入れについて

島村 勉 議員

・質問 外国人技能実習制度とは、外国人の労働者を一定期間日本国内で技能実習生として雇用し、発展途上地域などへ技能や知識の充実を図り、経済発展を担う人材育成に協力することを目的としている。外国人技能実習生がかかわる不法残留や資格外活動、窃盗行為などの事件や事故も報道されている。河田市長は外国人技能実習生受け入れのため姉妹都市フィリピン共和国バギオ市へ訪問された。そこで、次の点を伺う。

- ①外国人技能実習生受け入れ支援協議会について
- ②バギオ市訪問における協議

内容及び成果について

- ③実習生の支援内容について
- ④市民生活に影響のある施策の議会との連携について

・答弁（経済環境部長）

- ①外国人技能実習生受け入れについて市内の状況や技能実習生の受け入れ体制などを調査、研究する協議会である。
- ②外国人材の受け入れについての調査、研究の一環としてバギオ市を訪問した。成果は、2名のALTTが新たに派遣されること、介護福祉士や看護師を目指し留学する学生につ

いて情報共有が図れたこと、バギオ市は既に送り出し機関が整備されていることが確認



できたことなどである。
③今後の国の制度の動向なども見極めた上で、支援のあり方を検討していく。

④市の施策を実行する上で重要なことは、市長と市議会は車の両輪のように連携するとともに、互いにけん制し合いながら、市の発展のために活動していくことが必要であると考えている。今後も市長と市議会の権限、役割を踏まえつつ、議会全員協議会を通じて情報提供を図りながら市の施策に取り組んでいく。

2020年に向けての英語力UP対策について

丑久保 恒行 議員

- ・質問 次の点について伺う。
- ①羽生市の中学校の英語力の現況について
 - ②姉妹都市フィリピン共和国バギオ市への中学生派遣について
 - ③ALTTの増員計画について
 - ④2020年東京オリンピックへの対応について

- ⑤2020年に向けた英語力UPについて

・答弁（学校教育部長）

- ①今年4月に行われた埼玉県学力・学習状況調査の平均正答率は、中学2年生では、羽生市は60・5%、埼玉県は65・4%であり、中学3年生では、羽生市は55・9%、埼

玉県は58・5%であり、いずれも埼玉県平均に達していない



い状況である。

- ②市内各中学校から4名ずつ計12名の生徒が派遣され、異国の生活体験等を通して、日本文化との違いを肌で感じ国際感覚を高める事が出来た。この貴重な経験を、多くの生徒が共有できるよう努めている。

- ③小学校のALTTは今年度から1名増員し、7名を配置している。2020年からの新学習指導要領全面実施に向けて、市内小学校全校に1名のALTTが、月曜日から金曜日

まで常駐できるよう検討していく。
④少しでも英語に対する抵抗感を減らせるよう、他の国の人々と積極的に交流できる環境づくりを進めていく。

⑤英語の授業力を向上させるとともに、市内全ての学校にALTTを配置することにより日常的に英語を使うことができる環境を整え、英語力UPを推進していく。

その他の質問

・防犯カメラの設置について

議案に対する質疑

「議案に対する質疑」は、議会に上程された議案について、質疑を行うことであり、賛否の意思決定をするため議案の提出者に対し説明や考えを求めるものです。今期定例会では、次の議員によって行われました。

永沼 正人 議員

○議案第56号 平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 創業支援事業補助金として、当初予算では、8件835万円が計上されていたが、決算では198万2,500円であった。執行率が低い理由と今後の対策について伺う。

・答弁（経済環境部長）

執行率が低い理由は、補助金の利用者が少なかったことによるものである。この補助金は、創業支援セミナーの受講など専門家の指導を受けた方が対象となる。今回は、自己資金で対応した方、市外で創業するなど補助金の要件を満たさない方、創業場所を検討中のため、この補助金の活用に至らなかった方などであ

った。このようなことから、今回の創業支援事業補助金の利用者は、創業支援セミナー受講者1名と専門家による個別支援受講者1名の合計2名であった。

今後の対策としては、創業を検討している方に対して、確実な支援が受けられるよう、広報を通じ制度の紹介や周知を徹底し、一人でも多くの方が羽生市内で創業し、地域の活性化につながるよう支援していきたい。

保泉 和正 議員

○議案第56号 平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 上羽生調整池の維持管理業務、実施設計業務及び用地取得を行わなかった理由と今後の上羽生調整池の計画について伺う。

・答弁（まちづくり部長）

上羽生地内に計画している調整池が、効果を発揮するためには、まとまった用地が必要であるため、地権者を対象とした説明会において、地権者全員の同意がなければ、用地買収が進められないことなどをお伝えした。地権者全員にアンケートによる意向調査を行ったところ、用地買収に協力いただけの方が半数近くいる一方、調整池の事業自体に賛同いただけない方もいた。このような経緯から、地権者全員の賛同が得られない状況であり、調整池の整備を進めることが難しくなった。

このため、用地買収後予定していた、草刈りなどの維持管理業務や実施設計業務も見送ったものである。

今後の計画については、浸水対策として必要な事業であるため、引き続き地権者全員の賛同が得られるようお願いしていく考えである。

中島 直樹 議員

○議案第56号 平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算



ふるさと納税返礼品の一部

・質疑 ふるさと応援寄附事業について、件数が大きく減少していることに対する検証及び返礼品に係った経費と税収の差額について、また、羽生市民が市外へのふるさと応援寄附を行った額を伺う。

・答弁（企画財務部長）

ふるさと応援寄附金額が減少した要因は、総務省からの通知への対応によるものである。通知内容の主なものは、寄附額に対し返礼品の調達費は3割を上限とするものであり、本市では、返礼品の内容を減量するなど見直しを行った結果、寄附金額が減少したものである。返礼品に係った経費は、約550万円であり、これに対し寄附受け入れ件数・金額は、947件・約1,200万円であり、差額の

650万円が収益となった。羽生市民が市外へふるさと応援寄附を行った額は、6,748万1千円であり、このうち減収となる市民税額は2,900万円であり、収益との差2,250万円がマイナスとなっている。今後、返礼品の見直しなどを行い、寄附額の増加に向けて施策を展開していきたいと考えている。

その他の質疑

・議案第64号

野中 一城 議員

○議案第56号 平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算

・質疑 藍染振興事業補助金について、次の点を伺う。

① 藍染振興事業の内容及び効果検証について

② 今後の進め方について

・答弁（経済環境部長）

① 羽生市の伝統工芸である藍染製品の魅力発信や認知度の向上を図るため、市内藍染業者と連携し、さいたま市で開催された世界盆栽大会に出店するなど、武州正藍染の紹介と商品の販売を行った。ま

た、姉妹都市ベルギー王国デ
ユルビュイ市訪問の際には、
藍染の展示を実施したほか、
市内銀行の店舗内での藍染の
紹介展示や藍のまち羽生さわ
やかマラソン大会への出店な
ど、羽生市の藍染を広く知っ
ていただく機会を設けた。効
果については、市内藍染業者
とベルギーの企業が協力し、
武州正藍染を利用した商品を
検討しており、海外に藍染の
認知度を高める可能性が生ま
れた。

②引き続き市内藍染業者との
意見交換を踏まえ、共同で事
業を実施し藍のまち羽生や武
州正藍染の認知度の向上を図
っていききたい。

その他の質疑

・議案第64号

柳沢 暁 議員

○議案第61号 平成29年度羽
生市介護保険特別会計歳入歳
出決算

・質疑 認知症総合支援事業
について、認知症初期集中支
援チームの設置は、認知症が
疑われる人とその家族を訪問

し、医療機関への受診を促す
ための事業とあるが、その設
置時期、訪問件数及び活動状
況について伺う。

・答弁（市民福祉部長）

昨年12月専門医1名、看護師
1名、地域包括支援センター
所属の専門職6名及び市の保
健師1名の計9名で認知症初
期集中支援チームを設置した。

訪問件数及び活動状況につ
いては、市内3か所にある地
域包括支援センターに相談等
のあった2名の方に対し、自
宅訪問を11回、医療機関への
受診同行を4回実施した。

また、毎月1回チーム員会
議を開催し、新規案件の提案
や進行中の案件の経過報告な
どから、今後の支援の方向性
やチーム内の役割分担等を検
討している。

その他の質疑

・議案第56号、第64号、第67号、
第70号、第71号

藍染議会を開催

市議会では、9月定例会を
「藍染議会」と命名し、10年
目を迎えました。本会議に出

席する議員と職員が初日及び
最終日に「藍染シャツ」を着
用し、審議を行いました。

教育委員会委員の
任命に同意

教育委員会委員のうち春山
教子委員の任期が9月30日を
もって満了となるため、岩崎
智子氏を新たに任命したいと
して、市長から同意を求めら
れました。

市議会では、投票の結果、
適任と認め同意いたしました。

人権擁護委員候補者の
推薦に同意

人権擁護委員の齋藤きよみ
委員、齋藤みち子委員、梅田
法恵委員の任期が12月31日を
もって満了となるため、齋藤
きよみ氏を引き続き、また新
たに大塚喜美子氏、杉田美佐
江氏を推薦したいとして、市
長から意見を求められました。
市議会では、三氏を適任と
認め同意いたしました。



12月定例市議会の日程

12月定例市議会は、左記のような日程で予定されています。

月日	曜日	時刻	内容
11月29日	木	午前9時30分	本会議初日（開会）
11月30日	金		
12月5日	水		議案調査等のため休会
12月6日	木	午前9時30分	本会議（議案に対する質疑） （市政に対する一般質問）
12月7日	金	午前9時30分	本会議（市政に対する一般質問）
12月8日	土		休日のため休会
12月9日	日		
12月10日	月	午前9時30分	本会議（市政に対する一般質問）
12月11日	火	午前9時30分	各常任委員会
12月12日	水		事務整理等のため休会
12月16日	日		
12月17日	月	午前9時30分	本会議最終日（閉会）

※12月定例市議会の日程は、11月27日（火）に開催予定の議会連
営委員会で正式に決まりますので、変更になる場合もあります。

ボートレース戸田

県内15市で構成する都市競艇組合
の収益金の一部は、毎年構成各市に
交付され、市民の皆様の暮らしに役
立っています。平成29年度は、5,000
万円の交付金がありました。

◆開催日◆

- 11月15日(木)～18日(日)
【ポッカサッポロカップ】
- 11月29日(木)～12月3日(月)
【スカパー・ブロードキャスティング杯】
- 12月7日(金)～10日(月)
【ボートピア岡部カップ開設17周年記念】

◆会場◆

- ボートレース戸田（戸田競艇場）

※埼玉県都市競艇組合主催のみ掲載しております。

9月定例会 審議案件と結果

●議決結果の公表について

議会改革の一環として、「市民に明確な意思表示をする」という目的のもと、議員自らの考えを分かりやすく市民に示す手段のひとつとして、各議員の表決結果を掲載しています。

薫風会…薫風 拓政会…拓政 公明党…公明 日本共産党…共産 無党派…無派 【賛成：○ 反対：× 退席：退 欠席：欠】

議案番号	議案名	薫風						拓政		公明		共産		無派		審議結果
		本田裕	峯寄貴生	永沼正人	奥沢和明	根岸義男	松本敏夫	丑久保恒行	島村勉	保泉和正	野中一城	齊藤隆	柳沢暁	阿部義治	中島直樹	

市長提出議案

第56号	平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	-	×	○	×	認 定
第57号	平成29年度羽生市国民健康保険特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	認 定
第58号	平成29年度羽生都市計画下水道事業特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	認 定
第59号	平成29年度羽生市中小企業従業員退職金等共済事業特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	認 定
第60号	平成29年度羽生市住宅資金貸付事業特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	認 定
第61号	平成29年度羽生市介護保険特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	認 定
第62号	平成29年度羽生市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	認 定
第63号	平成29年度羽生市水道事業会計利益の処分及び決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	原案可決及び認定
第64号	平成30年度羽生市一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	原案可決
第65号	平成30年度羽生市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	原案可決
第66号	平成30年度羽生市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	原案可決
第67号	羽生市学童保育事業の実施に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	-	×	○	○	原案可決
第68号	羽生市印鑑条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	原案可決
第69号	羽生市税条例等の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	原案可決
第70号	羽生市事務手数料徴収条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	-	×	×	×	原案可決
第71号	羽生市重度心身障がい者医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	原案可決
第72号	羽生市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	※注1										-	※注1	同 意		
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	同 意
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(2)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	同 意
諮問第3号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(3)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	同 意

※齊藤隆議長は採決に加わりません。

※注1 投票結果 賛成13票：反対0票

平成29年度 健全化判断比率

健全化判断比率とは、自治体の財政状況を早期に把握し、破たんを防ぐことを狙いとしており、4指標とも数値が大きいほど財政状況は悪いとされています。

指 標	平成29年度	平成28年度
実 質 赤 字 比 率	- (13.17)	- (13.19)
連 結 実 質 赤 字 比 率	- (18.17)	- (18.19)
実 質 公 債 費 率 比	9.5 (25.0)	8.5 (25.0)
将 来 負 担 率 比	102.2 (350.0)	102.2 (350.0)

※（ ）は早期健全化基準の数値で、財政状況が悪化した場合、自主的・計画的に財政の健全化を図る基準となる。

※羽生市では赤字額がないため実質赤字比率、連結実質赤字比率は「-」表示となる。

・一般会計 歳入決算 191億309万円 (前年度比0・3%増)	・特別会計6会計合計 歳入決算 145億6,851万円 (前年度比1・8%増)
歳出決算 180億7,119万円 (前年度比0・6%増)	歳出決算 134億3,393万円 (前年度比1・8%増)

平成29年度決算を認定

◆傍聴について

羽生市議会では、本会議の傍聴を実施しております。市役所5階で受付をさせていただきます。市役所5階で受付をさせていただきます。市役所5階で受付をさせていただきます。市役所5階で受付をさせていただきます。

日等をご確認のうえ、お気軽におこしください。

詳しくは、市のホームページをご覧ください。務局にお問い合わせください。

☎048(561)1121 (内線)513

各常任委員会の経過

総務文教 委員会

委員会に付託された案件は、議案5件でした。

議案第56号平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算の審査では、企画費において「ふるさと応援寄附金額が平成28年度と比べ大きく減少しているが、どのように分析しているのか伺いたい。」との質疑に対して「平成29年8月より国の通知に基づき返礼品額の上限比率を寄附額の3割とした結果、大きく減少した。今後は、新たに体験型や市内で製造されたものなども返礼品として加えていきたいと考えている。」との答弁がありました。

また、農業費において「羽生市における農地中間管理事業の現状について伺いたい。」との質疑に対して「農地中間管理機構への貸付面積は平成29年度末で約331ヘクタールである。市では農地中間

管理事業と連携した、ほ場整備事業を実施し、農地の集積を図っている。担い手への大規模な農地集約により、生産性と効率性が向上している。」との答弁がありました。

次に、議案第64号平成30年度羽生市一般会計補正予算第2号の審査では、衛生費において「一般廃棄物処理施設整備基金積立額は、総工事費の何%までを積立目標としているのか伺いたい。」との質疑に対して「建設コストの3分の1を考えている。処理能力の規模により建設コストは流動的であるが、平成40年度ま



審査結果を報告する保泉委員長

での積立目標額は20億円と考えている。」との答弁がありました。

委員会では、これらの審査の結果、付託議案5件はいずれも原案のとおり認定、可決すべきものと決しました。

都市民生 委員会

委員会に付託された案件は、議案12件でした。

議案第56号平成29年度羽生市一般会計歳入歳出決算の審査では、消防費において「高規格救急自動車を増強し、平成30年3月から4台体制を取っているということだが、4台が同時に出勤したのは何回あったのか、また、救急救命士を含めてどのような人員配備をとっているのか、伺いたい。」との質疑に対して、「4台が同時に出勤したのは8件であり、救急要請に迅速に対応できた。また、救急車1台には、3名体制で、うち1名ないし2名の救急救命士を乗車させている。」との答弁がありました。

次に、議案第70号羽生市事務手数料徴収条例の一部を改正する条例の審査では「個人番号カードの市内普及率を向

上させようとしているのに、手数料を増額させることは、整合性がとれないと考えるが、改正理由について、また、手数料の改正は、市の受益者負担の全体見直しとあわせて行うべきと考えるが、見解を伺いたい。」との質疑に対して「平成31年2月から、コンビニ交付サービスを開始することに合わせて、手数料の見直しを行い、4月より改正するものである。今後も、個人番号カードの市内普及率向上に努めていく。また、受益と



審査結果を報告する島村委員長

負担の公平性の確保を図るため、受益者負担の適正化を検討し、適宜実施していく。」との答弁がありました。

委員会では、これらの審査の結果、付託議案12件はいずれも原案のとおり認定、可決すべきものと決しました。

ご意見などを
編集委員会まで

☎048(561)1121
(内線)513

《議会だより編集委員会》	
委員長	斉藤 隆
副委員長	中島 直樹
委員	奥沢 和明
委員	保泉 和正
委員	島村 勉

9月定例市議会傍聴者数	
9月4日	0人
11日	2人
12日	8人
13日	23人
14日	5人
28日	1人
計	39人でした。
常任委員会傍聴者数	
9月18日	2人
19日	1人
20日	1人
21日	2人
計	6人でした。